

令和 7 年度 第 2 回恵那市子ども・子育て会議 会議録

日時：令和 7 年 10 月 31 日（金） 午後 7 時～

場所：恵那市役所 会議棟大会議室

1. 開会

2. あいさつ

3. 議題

- ・ こども・若者に関するアンケート調査の結果について（資料 1）
- ・ 令和 8 年度からの子育て支援事業（案）について（資料 2）

4. 閉会

1. 開会

■進行（事務局） 定刻なので開会する。本日進行を務める子育て支援課長の高橋です。
よろしくお願いします。

この会議の成立には、恵那市子ども・子育て会議条例第6条2項の規定により過半数の出席が必要。委員名簿の1番杉山委員、10番堀尾委員、11番蜂谷委員、12番横井委員、15番森委員が所用により欠席との連絡を頂いている。可児委員はまだみえてないが、18名中現時点での出席者は12名であり、過半数以上の出席があるので本会議が成立していることを報告する。

また、本日の会議は、恵那市附属機関等の会議の公開に関する要綱に基づき公開とする。
本日の会議終了は午後8時30分までとしたい。御協力をよろしくお願いします。

2. あいさつ

■委員長・坪井 出席ありがとうございます。暑い夏が過ぎたと思ったら一気に寒さが来て、もう秋は来ないのかと思う。今日、三郷にクマが出た。工藤先生に聞くと、66号の信号の一つ下の家の柿の木にきたようだ。春にはうちの横を大きなのが通っていった。やはり三郷は田舎なんだろう。子どもの登下校が心配だ。食べ物がなくなってくると民家に近づいてくるのだと思う。気を付けないといけない。

今日は事前送付した2点の資料を基に意見を頂く。

3. 議題

- ・子ども・若者に関するアンケート調査の結果について（資料1）
- ・令和8年度からの子育て支援事業（案）について（資料2）

■進行（事務局） ここからは委員長の進行により進めていただく。

■議長（委員長） 説明は一括して行う。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■議長（委員長） この件について意見、質問はあるか。

■事務局 今日欠席の横井委員からメールで感想を頂いているので紹介する。要約して報告する。

アンケートに関して。「家族の中にお世話をしている人がいるか」で、中学生が 5.7%。令和 7 年度のこども家庭庁の調査の数値と同程度。恵那市も心配というような意見があり、さらに、その中で 1 日 3 時間を超えてお世話をするのが 63.9%、その中の 67.7%が相談の経験がない。恵那市として学校ごとにそれを把握できるのか。手を差し伸べる術があるかが気になる。

居場所について、大学の中でも居場所が重要になってきている。学校が居場所になってきているというところもある。自宅、職場、学校とは別にサードプレイスの必要性が高まりつつある。インターネット空間ではなく、図書館やコミュニティーセンターなど、施設の整備を考えていただきたい。

令和 8 年度からの子育て支援事業（案）について。子育てサポータースキルアップは、携わる人の専門的知識、技術の習得をさらに進めるという点において賛成である。

放課後児童クラブは、居場所という点で重要になっている。全国では待機児童数が 1 万 7 千人。恵那市としても職員の処遇改善も含め居場所として確保していただきたい。

こども誰でも通園制度については、「面談による対象児の状況把握から、保護者との連携も含め、手順を踏んだ段取りを想定」とあるように、そのスキルや体制、環境の整った施設で、子どもにとっても保護者にとっても安全かつ有意義な経験ができるために、恵那市ならではの丁寧な実施要領の作成をお願いする。

以上です。

■議長（委員長） 何でもいいので意見を頂きたい。

■小栗委員 アンケートについて、地域毎の回答を集計していないか。市内と恵南で、将来住みたいなどのことについてどれぐらい開きがあるか知りたい。恵南だともっと低いのではないかと思う。

「将来恵那に住みたい」というのがすごく低い。もう 10 年すればやばい。早急に対策を打たないといけない。一回、出てしまうと戻って来なくなると思う。より住みやすい場所にする対策を。

■光岡委員 先ほどの横井先生からの意見で、ヤングケアラーの問題提起があった。そこはどこかで参加できて支援ができてくるといいと思う。子どものアンケートでも、友だちが困っているというのがあった。どこかで把握できていくのかなと思った。

子育て支援事業の案は、「性教育の推進」が新しく入っていていいと思った。性犯罪防止に関しても大事だと思うし、妊娠出産に関わるわけではないが、行きたいと思ったときに自分で健康づくりがしていけるといいと思う。

■紀岡委員 8 年度からの子育て支援事業の 9 ページに育児不安がある。児童センターのことで、昼間に未就学児が親子で来たりする。他の方とコミュニケーションを取りたがらない母親が最近ある。それも気になる。

児童センターには小学生だけで来る。気になる子が学校などでサポートが必要な子なのかどうか、親が来ないので分からなかったりすると聞く。

6 ページ。中学校、高校生向けの市内企業 PR。恵那市社会福祉協議会もこういうものに積極的に参加したり中学生の職場体験を受けたりしている。その中で、南高校の生徒が施設を体験し、その人がこちらの採用に応募して、内定を出したケースもある。そういうことを積極的にすることで地元に就職して地元で暮らしていくことに繋がる。地元企業による職場 PR が大事だと感じた。

■水野委員 気になったのが、支援を必要とする子ども。家族の中に世話をしている人がいると答えた人が多い。それをどうやって把握するのか。学校の先生が様子を見て介入するということとはできないと思う。

その中で、相談してない子が多いこと。アンケートの 4 ページ、何でも悩みを打ち明けられる場所を子どもたちが求めている。ただ、本当に相談できる場所と具体的に書かれているのを見て、言っただけで終わることもあるのかと思うと、答えを求めている子が多いことを感じた。

アンケートの将来についてのところで、学びたい気持ちはあるが、家計を心配しているという意見がある。進学、塾などの、親も学ばせたいが、物価も高騰し、塾代も高く、困っていることが子ども心に分かるのかと思うと、学習したい子に対する経済的支援が整って来たらいいと思う。

子育て支援事業の中では、子育てに悩んでいる家庭が多い。社協でも、こども発達センターに通っている家族に対してペアトレなどはやっているが、今回子育てサポータースキルアップ支援で、他の職員も、支援者のスキルアップにはすごく良い事業だと思う。そういうことに一緒に関わりたい。

■駒宮委員 アンケート 6 ページの数字が少し良くなったのでほっとしている。

今私は「恵那未来キャンパス構想」を見ている。令和 4 年にやられた大変なアンケート。高校生と保護者、大学生、社会人の若い人たち、しかも東濃全般にわたってやっている。これはかなりすごい例だと思っている。

これと見比べると今回のアンケート結果とはちょっと違う。例えば、「将来希望する進路先はどこか」という質問に対し、「首都圏、関西圏」と答えている高校生は 12.4%しかいない。親に至っては 7.6%しかいない。ここに「都会に行きたいから」と書いてあるが、本当にそれがどれだけいるかは微妙だ。「卒業後に希望する住まいの場所はどこか」という質問に対して、首都圏、関西圏で住みたい人はほとんどいない。10%ぐらい。このデータはどうなっているのか不思議だ。

最終的に子育てをどの範囲まで考えるかはいろいろ考え方があがる。将来、高校、大学を卒業してどういうところに就職したいのかというデータも精密に調査をやっている。「全

国に店舗や事業所のある大企業」と答えている高校生は 19.5%、親は 11.1%。大学生は 17.2%。10～20%は大企業がいいと思っている。

我々の世代はみんな大企業がいいと思っていた。今の子どもたちはそう思っていない。では、圧倒的に親も高校生も大学生もここがいいと思ってるところは、「やりがいを感じられる企業」で5割を超えている。その次は、「良い社長、社員のいる企業」。この2つが圧倒している。

では、どういう企業を恵那に呼んだらいいか。あるいは、どういう企業の人の話を聞いたらいいかは、これからもう少し精密にチョイスする必要がある。

ちなみに、この未来キャンパス構想に関する調査の一つの欠点は、どういう企業がいいかと聞いているだけであること。企業以外に就職先はないのかということ。実は、自由回答になると、それが如実に表れる。高校生は、教員、学校、公務員、岐阜県内の教員、地方公務員、警察、病院、etc.と出てくる。保護者も、教員、大学病院、経営者、障がい者雇用に積極的に取り組む会社、等々。もっと恐ろしいのはすぐ就職を控えた大学生で、岐阜県教育公務員、公務員、市役所、恵那市付近の市の公務員、病院、教員という、ほとんど全部公務員。これが大学生の自由記述。自由記述になぜこんな回答が出てきたか。企業のことしか聞いてないからだ。

確定的なことは言えないが、若者のかなりの部分が求めているのは、ここからこっちに座っている方々のようになりたいということ。その辺も含めて、将来子どもが独立するまでを子育てと考えたとき、シームレスに考えてこれで若者が戻ってくるというストーリーを考える必要がある。

■安田委員 青少年の立場から話す。私は長島町に住んでいる。長島町青少年育成町民会議で、市内の企業に小学生を連れて行って見せることを 10 年位やっている。今年、デジタに行った。一切営業をしないで、アクリルスタンドやステッカーやシールを作っている。終わった後、子どもたちがここで働きたいと言った。髪の毛が真っ赤な人がいて、服装は自由。フレックスタイム。女性がすごく多い。社員の平均年齢は、社長を入れて 33 歳。恵那にこんなに若い子がいるということを初めて知った。なぜかと思ったとき、女性の雇用がしっかりしている。企業内に保育園がある。パートのような時間の人も全員正社員。働きやすい会社だということが分かった。恵那にそういう企業がまだあるはず。

それと、長島町で、子どもたちを近隣の市の優良な注目される企業に連れて行くことを来年度からやる。恵那市の企業にこだわらなくても、恵那から通えるところを紹介するのも一つだと思ったため。中津川市などにも連れていく。

通勤圏は多治見位までである。名古屋までであるとも思うが電車が少ない。あと1本増えると通えると思う。恵那に住んでどこまで行けるかも含めて、市役所の仕事紹介でももう少し目線を広げてやっていってはどうか。都会に行きたいというのは意外と少ないかもしれ

ない。恵那から通える良い企業を教えてあげればいい。

子どもの居場所づくりもテーマとして持っている。SNS でなくリアルにしゃべれる居場所がたくさんあるといい。ゆう' s ねっと ENA という広報紙では最近できた公園を紹介したり、バローのこんなところで勉強できるなど、いろいろなことを紹介している。子どもの居場所があるといいと感じる。

■大石委員 アンケートで、中学生、高校生がいろいろなことを考えて生活していることにびっくりした。自分たちだけでなく、子どもからお年寄りまで幸せに暮らせる、周りの人のことを気にしたり、ヤングケアラーがいるから助けてほしいということまで考えて周りを見る力が付いているということは、すごい子が育っているということ。それを、アンケートを見て感じた。大人がもっと視線を向けていけないといけない。子どもに教えられた。

ヤングケアラーがいるということ。保護者の中には、親の支援で子どもを見てほしいというのがある。それが子どもにも及んでいると思うと、何とかしないといけないと思う。

■西尾委員 アンケートを見て、恵那市に住みたいとか、そうは思わないとか、どちらにしても、自分がこうしたいというものがきちんとアンケートで自分の意見が反映できる、自分の意見を持っていることが、恵那市の中学生、高校生にとっていいことだと思う。

感想の 1 つ目は、ヤングケアラーもそうだが、子どもの SOS やヘルプをどう把握するかというところの意見が出ていた。例えば、小学校も中学校も毎月「心のアンケート」で、今思っていることや悩んでいることのアンケートを取っている。そこに書くか書かないか。書いてくれれば掘り下げることできる。でも書けない子もいる。そういったところで、ヘルプが発信しやすい環境をいろいろなところに作っていくという方向性はとても良いと思う。子どもによっては学校では弱みを見せたくない。学校では頑張っている自分を見てもらいほめてほしいので、家の弱みのようなところは相談したくないという子もいる。そこで、あらゆる場で子どものそういったところを把握していくことが大事だと思った。

2 つ目は、仕事を知ることということで、商工課が中学校でもやっているが、小学生からやっていくことも大事だと思う。どんな企業があるかを知るのではなく、小学生ぐらいだと、すばらしい技を知る、仕事の中身を見たり聞いたりすることはとてもいいと思う。こういうことをやってみたい、この人すごい、そういったところから、中身を知って、働いている人が楽しそうだとか、この仕事を大人になったらやってみたいというところを思っていくところから、中学校の職場体験になるという広がりが出てくるといいと思う。

子育て支援事業の 2 ページ。親学、学び不足。親の子育てに対することをどこで学ばせていくのか、子育て支援課を中心に子育てのサポートをする良い施策だ。

3 ページ、子どものコミュニケーション力低下対策。人とかかわることを大事に書いてくれている。コロナ禍で薄くなった人と繋がる、かかわるという機会をもっと増やしてい

かないといけないと改めて思う。お年寄り、乳幼児、園児、親子、地域の方々、講師、いろいろな人とかかわっていく中で子どものコミュニケーション能力が付いてくる。学校現場でもこういうところを大事にしないといけないと思う。

■可児委員 子どもの数は少しずつ減っているが、学童保育に来ている子はすごく増えている。どうしてか。両親が仕事をしていることもあるが、母がパートで働いていて、3時に仕事が終わっても学童保育に預けている人が多い。子育てをすることに少しでも他人の手を借りたい人がたくさんいるのだと思う。悩んでいる人がいることがここにも出ていて、子どもたちも居場所が欲しい。中学生はこんなことを考えているのだ、すごいなと思ってこれを見た。小学生にも聞いてみれば、よく考えている子がたくさんいると思う。

子育て支援をする私たちの力がこれからも大切だと思うので頑張らないといけないと思う。

■片山委員 先日うちの園の周りで広域停電が起こり、10時過ぎから午後3時ぐらいまで続いた。初めての経験だった。一番困ったのは水道が出なかったこと。ガスも止まり、給食も業者から来た牛乳とパン以外、調理ができなかった。いつまで続くのかも分からず、保護者に状況を連絡した。真夏ではなく真冬でもなかったのに冷暖房の心配はなかったが、薄暗いので子どもたちが不安そうだった。明るい所で絵本の読み聞かせなどをして過ごした。こういったときの対応は、いつも訓練はしているが、実際にそうになると、今回は電気だけだったが、災害でそうになると、親も迎えに来れなかったり、夕方暗くなる前に電気がついたのでよかったが、今いる園児を安全に預かることができるのかということを感じた。これを機にしっかりした対策を考えたい。

■牧野委員 先ほど安田さんが言われたデジタには私は15、6年前に1週間研修で行った。あと10歳若ければ就職したかった。魅力的な会社は恵那にもたくさんある。そういう情報発信ができてないのは経済団体の責任でもある。連携ができてないと感じた。今後、可能なら、企業ではなく、やりたい仕事、やりたい職業を生徒、児童から聞いて、企業との連携は商工会議所、商工会、経済団体ならできる。

地域のコミュニケーションについては、僕も三郷出身だが、三郷特有で、三郷の今の中学生ぐらいまでは、「笠置のおじいちゃん」と言えば誰か分かるぐらい、田舎だからこそできるコミュニケーションがある。ただ、田舎だからできるのか、都会ではできないのか、地域の人とのコミュニケーションが重要だ。今は変わったかと思うが、昔、三郷の学童が、高齢者の施設で交流も多くあった。私の祖母が101歳で、認知症前にそういうことでお世話になった。それが楽しくて行っていた。子どもたちと接することができる。子どもたちとのコミュニケーションに繋がる。今後も商工会議所としてできる部分は協力していきたいので、魅力発信のお手伝いをしたい。

■議長（委員長） 心配するのは、子育て支援事業の5ページの高校生の通学定期。今、麗澤高校と中京高校の車が頻繁に恵那に入ってきている。交通費が無料。そうすると、恵那高、恵那農高、恵那南高校に通う生徒が減るのではないか。ほかの人からもそう言われる。明知鉄道を無料にすると、ほかのところから来た人はどうなるのかということになる。今は半額だが、それを3分の1にするとか、考えないと、南高校がなくなる気がする。

議事の承認を求める。原案の通りに承認してよければ拍手してほしい。

〔拍手多数〕

■議長（委員長） 原案の通り承認する。

教育委員会から何かあるか。

■副教育長 身につまされる思いで聞いていた。

3時頃仕事が終われるが預ける人がいるということ。子育て支援が充実する流れの中で、子育ての醍醐味を忘れてほしくないと思う。どんどん助けて、遊びにいくために預けるというのを助けてしまう新制度になるといけない。苦勞して子育てしてそれを楽しむまちであってほしい。それができる情報交換ができるまちにしないといけない。

逆に、一人っ子が多いので、かわいすぎて、本当は自分で苦難を乗り越える子を育てたいと学校は思っているが、市に依られてしまつて、苦勞させないということもあるので、それを入れてトータルでやっていかないといけないと思った。

■議長（委員長） 進行を事務局に返す。

4. 閉会

■進行（事務局） 本日の意見を踏まえて、改めて令和8年度の子ども・子育て支援事業の詳細を固める。市の内部で調整を行い、来年、1月から2月頃、本年度最後の子ども・子育て会議を開催し、そこで皆様から承認を頂き、令和8年度の事業を決定したい。

挨拶を副委員長から頂く。

石田副委員長は12月の民生委員の改選により本日が最後の会議となる。

■副委員長・石田 短い間だったが参加して勉強になった。今後も新しい委員にはいろいろなことを学んでほしい。

私は中津川の保育園に行っている。先生方の話題で、手ぶら保育というのが保育園ではやっている。母親がすごく楽だ。恵那市でもおむつを園で処理していただく。多治見市でもそれが始まった。そういう意味で、母親は助かっていると思うが、子どもの汚いことや、子どもとの葛藤の中でのけんかもしながら親は子どもとの生活を楽しみ、子育てを勉強していくのだが、保育園のときから子育てを楽な方にと考えるのが今風になってきているのが怖い。

私としては、8 ページにあるこども園での出産後の未満児保育継続をこれからも検討するという回答をいただいたので、短い間にそういうことがやっていただけると有り難い。子どもを 2、3 人持つと、小さいほど手がかかるので親も大変だ。そういうところで助けていただけると有り難い。

■進行（事務局） 以上で終了する。

〔 閉 会 〕